

紅葉トレッキング!

男池からかくし水

紅葉の楽しみ方には2通りあります。「外からながめる」ものと「中に入る」ものです。

外からながめる紅葉は、大船山の御池や三俣山など、目的地まで汗を流して歩き、着いたその場所で歓声を上げます。一方、中に入る紅葉は、色づいた木々に身をうずめ、目的地を決めずにゆーっくりと歩きます。鳥の声を耳をすませ、キノコやコケの写真を撮り、図鑑片手に歩くその過程ぜんぶで秋を満喫するので

男池からかくし水の道はそんな「中に入る」紅葉の一番の名所! 目的地は一応かくし水ですが、今回のトレッキングはむしろ、途中で出会えるいろいろなものを目指して歩きましょう。

男池周辺エリアの紅葉は、例年だと10月下旬に色づき始めて、見ごろは11月に入ってから。カエデの種類が多く、赤や黄色が混じりあった複雑な色合いが楽しめます。ゴールの

かくし水では、冷たい水でのを潤しましょう。

なお、男池から下流側・名水の滝方面への遊歩道は、令和3年秋時点では通行できませんので、ご注意ください。



Q どうして「かくし水」ってこの名?

A 流れ出した水が、少し下流ですぐになくなってしまいうからです。でも、令和2年の豪雨のあとからはなかなか「隠れない」ことも多くなりました。

Q どのくらい湧いているの?

A 毎分20リットルくらいですが、雨の少ない冬は枯れます。降った雨が1ヵ月ほどの滞留で湧き出すそうです。ちなみに男池は毎分10〜20リットル、かくし水の千倍にもなります。

Q おいしい?

A 溶存成分の少ない軟水です。男池の水温が年間を通して約13℃とほぼ一定なのに対して、かくし水は5℃〜9℃と低く、このことも水をおいしく感じさせるようです。

【参考】「かくし水」調査報告書

05 かくし水 標高960m

紅葉の林を奥へ進むと、しだいに岩や石の多い登りが増えてきます。このあたりは令和2年7月豪雨の影響が見られるところ。誘導のロープやテープにしたがって歩きましょう。以前は、水を飲みに来た牛が男池の方へ行かないように牧柵(イガ線)がありました。流れてしまいました。左手に、ちいさな水流が見えたら、そこがかくし水です!



01 男池登山口 標高860m

県道621号=ぐるっとくじゅう周遊道路を、男池駐車場に向かいます。やまなみハイウェイの飯田高原交差点からおよそ10分、途中狭いところもあるので注意して。竹田市長湯温泉や由布市湯平温泉からも広域農道を行くことができます。駐車場の向かいにはトイレがあります。男池入口で清掃協力金100円を払ったら、いよいよ森の中に入っていきます。

阿蘇野・庄内・長湯温泉方面

10分

02 男池湧水と竜神さま



左への分岐を見送り、まずは男池湧水に立ち寄りましょう。男池は名水百選にも選ばれている湧水で、深い青色をした池の底から水がこんこんと湧き出しています。階段やひしゃくが整備されて、水を汲みやすくなっています。ここにはある伝説があります。

長者伝説と男池

飯田高原の朝日長者はある日照りの年に困りはて、とうとう竜神が住むという男池に雨ごいに出かけました。そして、「雨を降らせたくれたら娘を1人やる」と約束してしまつたのです。果たして雨は降り、田は息を吹き返しました。しかし長者は3人いる娘を手放したくありません。思い悩む家族を見て、いちばん下の娘の千鳥姫は、「私が犠牲になれば」と、夜中にこっそり抜け出して、一人男池に向かいました。男池のほとりにつくと、姫は観音像を前にお経を唱えて竜神を待ちました。すると、男池の水面がにわかざわつき、1匹の大蛇が大きな口をのけてとびかかるとはありませんか。そのとき、傍らの観音様が蛇の口に飛び込むと、大蛇は涙を流し、「これで成仏できる。ありがた。い」と言い残して、池に消えていきました。残された千鳥姫は、家に帰らずに山を下り、そこで出会った多岐見長者に仕え、のちにお嫁さんになったそうです。

「飯田地区まちづくり協議会製作」「飯田高原・朝日長者伝説と不思議めぐり」より

03 男池のケヤキ



湧水から少し先に入ると、ケヤキの巨木が目に入ります。まるで御神木のように男池を見守るこの木は必見。となりには「岩をつかむ木」も。どんな木なのかは行ってみてのお楽しみ! ルートはここから奥へと続きます。

10分

04 紅葉の林へ



ケヤキの巨木から少し登ると、湧水をパスしてきた道と合流します。このあたりから、まわりはクヌギ、カエデ類の気持ちのいい林に。オヒョウ・ハルニレ・アオダモ・ミツデカエデなど、いろんな形の落ち葉を探しながら歩くと、時間も忘れるほど。右側には雨のあとに水がたまるくぼ地があって、立ち枯れた木も混ざる独特な風景が楽しめます。野鳥も多く、鳥の声を聞きながらのんびりしましょう。ときにはアナグマもひょこり顔を出すかも!

歩き足りない方は

かくし水からさらに奥へと登山道は続きます。しだいに登りは急になっていくので、かくし水までで「きつかった〜」という人は、引き返しましょう。紅葉のきれいな林の中をかくし水から40〜60分ほど歩くと、突然空がひらけて、「ソババツケ」というくぼ地につきます。雨がずっと水がたまりぬかるんだりする場所ですが、晴れた目が続く秋は、乾いた平地になっていることが多いです。ここの紅葉はまさに絶品! 平治岳へ続く稜線と手前の色づいた木々のコントラストが、山歩き疲れをいやしてくれるでしょう。ソババツケからは、大戸越をへて坊ガツルや平治岳、セリグチ谷を通過して風穴や黒岳にも行くことができます。